

こだわり
持てば離れる
捨てれば
みんな仲間

四季彩々

NO.18 2007年12月号

発行 全日本年金者組合 岐阜県本部

編集責任者 上 宗治

土岐市妻木町3247-195 TEL 0572-57-3250

新しい仲間の紹介

9月10月11月の新しい仲間です。3ヶ月間で39人です。

支部名 多治見支部だけで13人です。

岐阜 堀田よし子 井深百合子 平塚澄子 三品孝雄
平山千代子

各務原 北澤順子 川出康子

西濃 高橋文明 内藤幸枝 石原秀美 三輪英子
石戸谷セツ 足立 進

関 田島昌穂(8月加入) 高垣国平

美濃 1名

加茂 水上久子 亀山くに子 三品蝶子

多治見 佐藤 進 今井和美 宮嶋照生 藤田 惺
前田みさ子 松平三那子 梶田美津子 山田靖子
小境千万子 若狭フサエ 土門ムツ子 藤井初巳
小栗みつ子

土岐 柴田敏之 山内麗子 小島純子

恵那 曾我登志恵 他8名



'07県交流集会 11月29日~30日 下呂温泉・寿々波



長谷川県委員長の挨拶



豊島和夫さんの講演を熱心に聞くみなさん



岡部義明さんの講演

学習・話し合い・交流

今年も県交流集会が、下呂市寿々波で開催されました。県委員長の訴えで始まり、下呂市市会議員で組合員の宮川茂治さんの歓迎の挨拶がありました。

今回は組合員二人の講演でした。一日目は西濃支部の岡部義明さんです。高齢者に優しい、「大垣市老人医療補助制度のとりくみ」の話しでした。

二日目は各務原支部の豊島和夫さんです。「私の介護体験ー福祉について考えるー」です。28年間の奥さんの全身が麻痺する脊髄炎の介護です。時代の流れによって日本の福祉の変化にまで及ぶ話です。県年金者組合の中に立派な経験をされている講師がおられる事に誇りを感じます。分科会では一人ひとりの活発な話し合いが行われました。

夜は、宴会で交流です。寸劇、紙芝居、替え歌、トーク、踊りで大笑いの一と時でした。91歳の加地絹江さん、83歳の永治幸枝さんから元気をもらいました。めでたし。めでたし。

多治見支部 仲間ふやし一番

11月は全国仲間づくり強化月間です。多治見支部では、執行部が本気になって話し合い、計画を持ち行動に移しました。そして月間11月だけで12人の仲間を増やすという成果をあげました。岐阜県全体では27人です。全国的に岐阜県の仲間づくり月間の成果は11番目です。ベストテンは主に政令都市を持っている大きな県です。岐阜県は多治見支部の頑張りで全国的に上位に行きました。わたしたちは「県年金者一揆」と「県交流集会」を成功させました。さらに、おそい社会に怒りをもち、「仲間ふやし」も多治見支部に続きましよう。



夜の食事と宴会 交流会・最後にほとんどの人が酒と踊りに酔いました郡上踊り

岐阜県の現勢 1768人です。目標は2000人です。

感想・県交流集会

七分・三分

恵那支部・付知分会「楽しみ七分に活動三分、もう命令では動かない」

県年金者組合草創の頃からこの合言葉は会員に親しまれ広がってきた。今も多くの支部で指針となっている。

ところでこれについて賛同できないという意見が県本部の中にあることを、今回の下呂交流集会分科会の話し合いの場で知った。日本の労働運動がこれ程大変なときに、「楽しみ七分」とは何であるのか。ただか組織であるべきだという意味に私は受け取った。私も七分と三分に分けて意識することには疑問がある。

15年に及び分科会活動は楽しみの中にただかエネルギーを育て、活動の中に連帯感と生きがいを見つけたことだった。

戦争をはさんで何十年もたつて働き続けた国民年金者の人たちが有権者の一人として、だまされぬ力を蓄えていくことのできる活動のスタイルは今後も模索されていくべきだろう。

底辺を生きる一人ひとりの心の奥底に改革がはじまる時が日本の変革のはじまる時だと思っ。急がばまわれ。たのしみ、そしてただかおっ。

丹羽時代

訃報

土岐支部 初代支部長

河合利文さん 87 死去

県年金者組合の創設に尽力され、土岐支部の初代支部長としても、その発展に精魂込めて努めてこられた。療養生活の中、去る10月18日死去されました。ご冥福を心からお祈りします。

更生施設に行つて来ました。名古屋の守山区にある学校のよう施設でした。和太鼓の練習をしていました。腹に響く音です。楽しく、かつこう良く集中力を養うためかな。中学生の年代です。18人くらい。女性は6人くらいかな。次の時間が僕の友達陶芸家の先生です。彼が僕を誘ってくれたので参加することが出来ました。彼は陶芸でなく、ナイフを使って箸の作り方教室にしました。僕も一緒に箸を作りました。彼らは不器用ですが恐る恐るナイフを使います。作って先生に見せ、出来具合を聞く生徒もいます。串カツの串のように細く作る生徒もいます。爪楊枝だといって笑わせます。一時間の授業でしたが、4人の先生たちも箸を作つて生徒の中に同化しています。ここにいる生徒は誘われて犯罪に関わつた、軽い罪の子どもたちとの事です。一緒にいればそんなことは忘れてしまいます。陶芸の先生は、このことを社会の窓、として受け止めています。施設の存在。生徒の心。生徒の親の気持ち。たずさわっている先生の姿勢。などを社会的縮図としてみています。その中で彼は、彼存在のあり方を自問しています。15年間、週に一回ぐらいの授業をされてきました。ナイフを使ってナイフの痛さを知つて欲しいとのこと。54歳、いろんな事を彼から吸収中です。

多治見支部 鈴木徳治さん

年金者一揆むしる旗川柳に応募
510首の中から31首選ばれました。

川柳・優秀作品に入選

鈴木さんの作品と東海近県の作品を紹介します。

世直しに今こそ生かそう老いの知恵

岐阜県 鈴木 徳治

支給日を待たねば行けぬ歯の痛み

静岡県 河村 不二子

天高く政治動かしむしろ旗

愛知県 山田 良裕

給油ならうちのタンクに入れとくれ

三重県 松井 秀鷲

改憲だ福祉そのけ戦車が通る

滋賀県 大久保 通夫

豊田の暮らしシリーズ

「学校を出てから10余年、今日はわがらのクラス会……」いっつになつてもクラス会は楽しいものです。
しかしなあ、6千円か」と考えました。



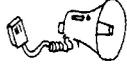
所得者は高い税率（最高83%と書いています）で税金を払っていました。

同級生の中には町で幹事に会うと「そつと、顔を横に向けて通り過ぎてしまおう人」もあるそうです。
悲しい話ではありませんか。

年金の財源は今の日本のように、保険料を納めて、給付をもらう社会保険方式と国に入る税金でまかなう方式と二通りです。

ビール

野球の「王や長島」も同じです。今は低く4割前後となつています。
法人税も低くなつています。



みなさん税金の使い方と言う「大きな話」をこれからどんどんしませぬか。
「思い出ばなしに花が咲き、飲んだビールが5万本」
郡土支部 加藤 清二

宗教について

サルとヒトの違いは三つあります。一つは、「直立歩行」です。ニワトリも二本足歩行ですが直立ではありません。直立のため手が自由になり道具を作り脳が発展します。

おおよそ360万年前人類最古の家族の残した足跡が南アフリカにありま。大ぎめの足跡の横に小さめの女性と思われ足跡と子どもと思われる小さな足跡が発見されて、保存されています。

三つ目は、「言葉の使用」です。言葉によって政治、宗教、文化が発展、伝えられてきました。

私は昔から宗教はワソの固まりだと思つていました。いんちき、ベネン、存在しない神仏をさもいるように描き、頼り、身を寄せて生きています。怒りさえも覚えていました。

しかし10数年前から見直しています。現在のように科学が発展してない時代、荒々しい自然界での生活は不思議なことばかりです。宗教は自然界と折り合いをつける感謝の表現が文化としてつながつています。

お祭りなどのようにして、生きています。わかりやすい言葉として残り、感動することしばしばです。

仏教に前世、現世、来世という言葉があります。前世の行いが、現世に報いとなって現れ、現世の行いが、来世へ報いとなって現れる教えです。「因果応報」と言います。

「因果応報」をよいものにするための行為が仏教では「祈り」であり「正しい行いをする」とであると言っています。

(三) 仏像のふしぎ

美濃支部 三井 好機

二回目です。何かということなく始めます。

「仏像とは一体なんだろうか？」
本来仏陀の像をさします。

「仏陀」とは？
梵語で「真理を悟った人」「慈悲」と「知恵」を兼ね備えている人格の総体というのでしょうか。略して「仏」如来とも言います。

「そつと、俺と一緒や」という人は大前あたりいいところですよ。

「釈迦」とは？
インドのアリア族の王族に属する釈迦族からつたもの。生誕年代は定説ではありませんが、紀元前四八三年、今のネパール付近のカピラ国の釈迦族の王子として誕生しました。

仏像が日本に伝えられたのは、西暦五三八年といわれています。欽明天皇のころ、百済の聖明王が仏典や仏具などとともに一体の釈迦如来金銅像を持参したとい、これが最初に伝えられた仏像です。すでにインド、中国などでは二世紀に仏像彫刻はありました。

仏教の受け入れをめぐって蘇我氏と物部氏とに間に立ってありました。

物部氏は、外来の宗教を信仰すれば、日本土来の神々が怒り、さまざまな災いがあると主張した。

蘇我氏ははるばる海を渡ってきた仏像を丁寧に祭るべきであると主張しました。

六世紀末ごろには、建築や土木技術者とともに多数の仏師も数多く渡ってきました。

仏の眉間にある白い毛。光を放つといわれ仏像では水晶などははめてこれを表します

ちなみに、現在最古の仏像の一つとして現存も威容を保っているのは、飛鳥寺の釈迦如来像で、止利仏師の作といわれています。
止利仏師——わが国最初の仏師《七世紀》帰化人。飛鳥時代の仏像彫刻界の指導者
一般には如来（釈迦如来など）
出家をして悟りを開いた釈迦の姿をモデルとしています。
○菩薩（観世音菩薩など）
慈愛を表している像。
○明王（不動明王など）
知恵と力を取り入れている像。
○天（仁王、帝釈天など）
インドの神々を取り入れています。これらの像は次のように分けられています。

白毫



如来（仏）、菩薩、明王、天（天部、神々）、羅漢、高僧などに分けることができます。
しかし、釈迦の生存中も入滅後も、ずっと崇拜の対象を仏像という形に求めていません。釈迦を人間の姿であらわすことを避けていたのです。舍利塔を礼拝していました。



仏像を求めた訳は次回にします。
舍利——遺骨の意味で、特に仏陀の遺骨を（仏舍利）言います。
舍利塔——仏舍利を安置した塔。日本では金や銅などで小塔を作るのが一般的になっています。



岐阜県内に多くあるが美濃市上野の長蔵寺（美濃市最古の禅寺）にある舍利塔は国定の重文に指定されている。塔は宝塔の形式をとっており美しい形をしている。



南北朝の特色を南北朝の特色を表現しています。



菩提樹